科学五輪代表凱旋 文科相を表敬訪問

数学で国別2位、副島さん「首席」

今年度の国際科学オリンピック（数学、物理、生物学）の代表選手が、塩谷文科大臣を表敬訪問した。

ドイツで22日まで開催された『第50回国際数学オリンピック（IMO）』では、日本代表が金メダル5つを含む、6つのメダルを獲得、過去最高成績を収めた。国順位は2位（非公式）。104の国と地域から、565人が参加した。

世界トップの成績で金メダルだった筑波大学附属駒場高校3年の副島真さんは「最後のIMOで全問正解できて満足」、同じく金メダルの灘高校3年の今村志郎さんは「昨年友達になってメール交換していたバングラデシュの選手に会えて感激しました」と大会を通じた交流が続いていることを紹介した。同じく金メダルの久留米大学附設高校2年の岸川滉央さんは「金メダルが取れて、とてもうれしいです」とコメント。

金メダルの筑波大学附属駒場高校3年の滝聞太基さんは07、08年と同オリンピックに出場、既に銀、銅メダルを取っていることから「IMOには3回目の参加ですが、3色目の金メダルが取れてうれしい」とした。同じく金メダルの開成高校3年の保坂和宏さんは「ドイツ語を勉強していたので、いろんな国のガイドさんと交流できてよかった」と交流を楽しんでいた。銅メダルの北摂三田高校3年の石川卓さんは「世界の数学好きの人たちと交流できてよかったです」と話した。

塩谷立文科相を表敬訪問した国際物理オリンピックの日本代表。5人全員がメダルを獲得した

◇

メキシコで19日まで開催された『国際物理オリンピック（IPhO）』では、日本代表5人全員がメダルを獲得した。72の国と地域から317人が参加。

金メダルの慶應義塾高校3年の蘆田祐人さんは「実験はやさしい内容でしたが、使用する器具が単純なものばかりでやや困惑しました。全体としてミスが多く、ベストは尽くしたつもりですが、IPhOや世界のレベルの高さを思い知らされました」とし、同じく金メダルの茨城県立水戸第一高校3年の東川翔さんは「実験では干渉をうまく出すことに時間を浪費してしまいました。日本も中国や韓国のようにものすごい強化訓練をすべきだと思います」と話した。

銀メダルの岡山県立岡山朝日高校3年の難波博之さんは「理論問題の内容は研修などで経験したもので、とっつきやすかったのですが、問題数が多くて苦労しました。使い慣れた電卓が使えないという急なルール変更にうまく対応できませんでした」。銅メダルの愛知県立旭丘高校3年の安藤孝志さんは「ぎりぎりで銅メダルにたどりつくことができ嬉しいですが、もう少し上を意識して挑戦したかった」とし、西南学院高校3年の横田猛さんは「本番では何が起きるか分からないと実感しました。実験はこれまで受けた研修に比べて難しかったのですが、根気強くやることが大切であると実感しました」と語った。

生物学五輪で日本初の「金」

初めての日本開催となった『第20回国際生物学オリンピック』で、千葉県立船橋高校3年の大月亮太さんが日本初の金メダルを受賞した。灘高校2年の中山敦仁さん、桜蔭高校2年の谷中綾子さん、桜蔭高校3年の山川眞以さんもそれぞれ銀メダルを受賞。実験課題と筆記試験の総合成績で評価され、4人ともトップ50位以内に入る好成績を収めた。生物学オリンピックに参加した日本代表では過去最高の成績。代表4人すべてが金メダルだったのは米国と中国。

表彰式後の会見で大月さんは「海外の生物学好きの高校生と友人になれた。試験では、面白えたが、たくさんの人と交流して日本の良さを伝えられた。生物学は一生をかけるに足るものだと思った」という。山川さんは「息をするように生物学の勉強をしていた。受験との両立は大変で、自分との戦いだった。海外の高校生とレベルの高い話ができた」と感想を話す。

好成績を収めた生物学オリンピックの参加メンバー4人。右から2人目が金メダルを獲得した大月亮太さん

井村裕夫・国際生物学オリンピック2009組織委員会委員長は「今回の大会が刺激になって、全国に生物好きの高校生が増えてほしい。開会式で21世紀は生命科学の世紀と申し上げた。生命科学が爆発的に進歩しており、日本からも良い研究が出てくるようになった。生命科学・生命科学が一層伸びていってほしい」と話した。

今回の大会は、通常より短い大会準備期間、新型インフルエンザの世界的流行など、多くの問題が続発したが、221人の参加者全員が最後まで試験を受けることができた。

来年は、国際化学オリンピックが日本で初めて開催される。日本文化に造詣の深い海外の参加者も多いと聞く。文化交流の際には、代表たちが着物で登場し、日本の新たな文化として認

の道を進んでいきたい」と目を潤ませた。

中山さんは「金メダルでなく悔しかったが、海外の高校生との交流はとても楽しかった。将

全地球的な難題を解決することはできない。今回の受賞者たちの活躍を見て、後に続く人がたくさん出ることで、日本の生物